

社会福祉法人 日本点字図書館

2025 年度事業計画

《重点項目》

はじめに

「新しいことが始まる年になる」と言われる巳年、世界がこれに呼応するかのよう
に動いている。とりわけ指導者の交代があった大国の動きは激しく、その内容は世界
の政治や経済、国際関係に大きな影響を与えるだけに気になる。中でもマイノリティ
の人々がかかえる様々な格差を是正しようとする DEI（「多様性、公正性、包摂性」）
の取り組みが推進されてきたが、ここ数年、保守系活動家らから「逆差別」というバ
ッシングが起き、DEI の取り組みを後退させていて気がかりな状況にある。しかしマ
イノリティの立場に置かれた人々からすれば、まだ道半ばであり、さらなる進展が望
まれる。反 DEI の姿勢を鮮明にした政権はこれから何をし、何が起こるのか。日本も
「他国でこうなったのだから」とマイノリティの権利保障が反動にさらされる可能
性があり、ひとごととは言えない。なぜならば、そうした世論が増幅し大きくなると
公的機関からの予算措置が縮小され、併せて支援者の数も減少していくと想像され、
それに伴って当法人の財政も一気に今以上の厳しい状況に追い込まれるからである。
このため、以前から問題提起され、その都度検討していた財政基盤の安定化について、
改めて今年度の重点課題の一つに組み入れた。

こうした行動に加え、当法人の存在と活動を社会に発信し、今日、視覚障害者が置
かれている実態を伝えて、理解と協力を求めることも欠かせてはならない。本年は、
ルイ・ブライユが六点式点字を考案して 200 年に当たると同時に、当館の創立者であ
る本間一夫生誕 110 年でもある。この機会を生かし、一層の広報に努め、支援者を増
加させたい。

読書バリアフリーを巡っては、2023 年 7 月、第 169 回芥川賞を重度障害のある作
家・市川沙央氏が受賞し、記者会見で読書バリアフリーを訴えたことを機に、潮目
が変わり、障壁除去の必要性が社会的に認識され始めたように見える。2024 年 4 月の文
芸 3 団体による読書バリアフリー施策についての共同声明、6 月の出版関連 5 団体
による共同声明などはその主なるところであり、画期的ともいえる。こうした中で国に

策定義務が課せられている読書バリアフリー基本計画の第2期がスタートする。盛り上がりつつあるこの機会を好機と捉え、図書製作の安定化を図るための行動も前進させたく、重点課題に挙げている。

日々の業務では、常に課題意識を持ち、是正したり改善したりしながら仕事を行なうことが求められており、もはや全業種において共通言語のような存在になっているトヨタ式「カイゼン」は当法人でも実践せねばならないと考えている。そこで、その前段として2024年度は「当たり前を疑う」ことを職員にお願いした。

トヨタ式カイゼンでは①3Mの削減、②5S活動の促進、③ボトムアップ式で現場主体の取り組みが必要とされる。この中で①にある3Mは「ムリ・ムダ・ムラ」を差し、その削減を図ろうとするもので、当法人の場合、これに該当することが少なからずあるように見受けられ、強く意識したいところである。日常業務の半分以上はルーチンワークと言われる。慣れた仕事に対しては、課題意識が低下したり、改善を怠ったりするようになりがちで、慣れた仕事だからこそ、ムダは生じやすいとされる。さらに人によってやり方が異なると品質のムラが生じる。「ムリ・ムダ・ムラ」をなくしていくことは業務負担の削減、スピードアップ、コストの低減、サービスの安定・向上に大きな効果を発揮することができる。引いては、その日々の積み重ねが安定的な財政基盤の構築にも結び付くと考えている。

1. 第2期読書バリアフリー基本計画における実証調査への積極的協力

国が策定した第2期読書バリアフリー基本計画が2025年4月から始動する。今回の実施期間で国は、特定書籍・特定電子書籍等の製作の支援（第11条関係）に当たって製作者への電磁的記録の提供に関する課題や具体的方法について、主導して実証調査を実施することになっている。その調査では、当館は事前に協力館の依頼を受けていることもあるが、出版社から電磁的記録（電子データ）の提供がなされることは、点字・デージー図書等の製作やプライベートサービスにおいて効率化をもたらし、製作期間の短縮が図られる可能性があり、当館としても期待を寄せているところである。今後の図書製作のあり方を左右するものともなるだけに、体制を整え、今後を見極める材料を得るべく協力する。

2. 図書製作等における生成AI活用の可能性についての実証的検討

生成AIの開発が世界的な競争をもって展開されている。その活用も各所で進められていて、点字図書館も注目しているところである。とりわけ、図書製作・プライベートサービスの現場では、製作協力者の確保が困難になっている実態があり、AIを用いることで製作にかかる省力化と効率化を進め、協力者が減少しつつある中でも製作

数を一定数維持できる仕組みを作ることが求められている。2024 年度においては、無料版の AI を用い、検討を行い一定の知見を得たので、これを有料版に切り替えて掘り下げた検討を展開する。

3. 安定した財政基盤構築に向けた取り組み

2023 年度の法人決算では、約 1,500 万円の赤字が生じた。その背景にはコロナ禍や国際紛争による社会経済の不安定化もあるが、要因はそれだけによる一時的なものとは考えられない。近年は募金収入の減少や事業収益の伸び悩み、公的助成の抑制などの傾向が顕著であり、今後の財政状況は厳しさを増すことが予想される。財政の逼迫はサービスの質の低下や劣化にも繋がることから、法人の収入の維持・増額や、支出の適正化を総合的に検討する体制を整え、そこから得られる改善のための方策の実現に取り組む。

4. 本間一夫生誕 110 年記念事業の実施

2025 年は当館の創業者・本間一夫生誕 110 年に当たると同時に、ルイ・ブライユによる六点式点字考案 200 年でもある。点字に出会い、それを習得したことで道が開かれ、点字によって生かされた本間一夫と当館について、これまで収集した資料を基に未発表の事項をまとめ、記念誌を作成し、当館の広報に活用する。また点字文化を守り、創造し、継承する役割を担う点字図書館として、広報誌『にってんフォーラム』でも関連する短期連載を組む。これらを通して当館の一層の理解と支援に努める。

5. 会計業務の一元化に向けての検討の再開

当館の会計システムは現在、本部と用具事業課の 2 本立てになっている。これによるデメリットは少なくなく、以前から改善の必要性が指摘されていた。そこで一昨年度に重点項目として設定し取り組もうとしたが、電子帳簿保存法に基づく会計関連業務効率化を優先したために先送りとなっている。会計事務でのデジタル化は一定程度進んできたので、改めて会計業務の一元化に向けた作業に着手する。

以上、重点 5 項目を記したが、上記を踏まえた各部、各課の事業計画を以下に詳述する。

《社会福祉事業 1》

視聴覚障害者情報提供施設の経営、全国の視聴覚障害者情報提供施設に関する連絡事業

1. 図書情報提供サービス

(1) 新規利用登録者獲得増と点字図書・録音図書の提供

利用登録者の獲得増に当たり、これまで実施してきた関連施設・学校等への「出前利用説明会」の内容を更新する。また新たに行政の福祉窓口や医療機関での相談会等へ出向いて図書館利用を促す説明会の開催を模索し、結果次第で準備・実施する。これらを通して新規利用登録者 350 人以上の獲得を目指す。

サービスの提供方法についても、利用者の読書環境に配慮した対応を行うことを基本とし、利用実績を分析しながら見直しを図り、全利用登録 13,600 件（個人＋団体）に対し、点字図書は 5,000 タイトル、録音図書は 235,000 タイトル、毎月発行の録音雑誌「にってんデイジーマガジン」は 62,000 枚以上を提供する。

(2) レファレンスサービスおよび日本十進分類法を反映した当館の書誌データ整備、ならびに新たな日本目録規則に関する情報収集を行う

利用者が求める図書情報等を速やかに提供できるよう読書支援をする。なお蔵書については、日本十進分類法（NDC 10 版）を反映した書誌データの整備はほぼ終わっているが、残っている部分について継続して対応する。また、新たな日本目録規則（NCR 2018 年版）について、国会図書館や TRC（図書館流通センター）をはじめとする国内の関連団体の動向に注視し、引き続き情報収集をしながら必要に応じて、当館の書誌入力規則の見直しや各システムの改修検討を行う。

(3) 迅速な図書選定と蔵書の充実

利用者ニーズに沿った図書の製作と提供を迅速に行うため、点字・録音図書の製作選定について即時選書を実施する。また、引き続き出版される点字図書・録音図書の購入や、サピエ図書館にアップロードされている他館製作の図書などからも厳選して受入れを行う。

(4) 「テレビ・デイジー」および、「Amazon オーディオブック」コンテンツの利用促進

当館のオリジナルサービスとなる、NHK で放送された音声解説付きの番組を元に製作した「テレビ・デイジー」および、有料配信している Amazon オーディオブックから音源の提供を受けて製作したコンテンツについて、個人利用者を対象に、さらなる利用促進を行う。

(5) 利用者用目録の製作と提供

点字図書新刊案内「にってんブレイル」（点字版）と、録音図書新刊案内「にってんボイス」（録音・点字・墨字版）を隔月で発行する。「にってんボイス」の録音版は、「にってんデイジーマガジン」とサピエ図書館でも提供し、録音図書目録については「CD 図書年間追加目録 2024 年版」をデイジーで製作・発行する。なお点字図書の 2024 年以降発表についての「年間追加目録」は製作を終了するが、レファレンスサービスによるリストの作成で対応していく。また、新刊図書を出す毎に内容更新している「テレビ・デイジー図書目録」と「シネマ・デイジー図書目録」の録音版・点字版・墨字版は発行を継続する。

(6) IT 教室の開催

生活支援部自立支援課と連携し、自立訓練（生活訓練）を受講する条件に適合しない IT 教室受講希望者に対し、基本操作技術の習得支援とサピエ図書館の利用促進を目的として 3 回コースで年間 8 期を 6 月から開催する。また、IT 機器に初めて触れる人に対しては、予約制による 1 回 60 分、原則 1 回の操作体験クラスを開催する。また、情報収集とスキルアップのため、職員は内外問わず関連した研修会への積極的参加と勉強会を行う。

(7) サピエ図書館への製作情報の登録

サピエ図書館への点字・録音図書の着手・完成・所蔵情報の登録を迅速に行う。

(8) 各システムの安定的稼働に努める

サピエ図書館、ならびに当館の基幹システムである CLIS 図書館総合システムについて、今年度も「サピエ・CLIS システム管理班」を中心に安定的稼働に努める。双方の今後のシステムサーバの更新の検討を行うとともに、国内の点字図書館等のほとんどが導入している Web 図書館システムの運用支援を行う。

(9) サピエの将来像についての検討

サピエの将来像について、サピエ・CLIS システム管理班等と共に確認し、実現に向けて運営組織である全国視覚障害者情報提供施設協会や国立国会図書館等との意見交換を今年度も勧める。また、サピエ図書館上で見られる検索精度低下の一因となっている不備な一部の書誌データについて、具体的な整備方法を検討し、全国視覚障害者情報提供施設協会へ提言する。

(10) 学習障害や発達障害、上肢障害など、視覚障害以外の活字読書に困難を抱えた人たちへの録音図書の提供を行う。

2. 点字図書・触図等の製作

(1) 点字図書の製作

- ① 点訳書 150 タイトルと厚生労働省委託図書 30 タイトルの製作を行い、点訳データをサピエ図書館に登録する。
- ② プライベートのニーズに応えるため、希望点訳事業を行う。

(2) ボランティア、スタッフの指導・育成

現役点訳者約 50 名・6 団体に対する点訳技術向上のための指導を行う。
新規点訳者の養成を進める。
図書製作実務を担えるスタッフ等育成のための技能向上研修の実施を検討する。

(3) 点字図書の販売

約 1,000 タイトルの図書の頒布を行う。
特色ある点字図書の販売促進活動を行う。

(4) 点字教科書の製作

- ① 視覚特別支援学校理療科用教科書の製作
盲学校理療教科用図書編纂委員会編「医療と社会」の点字版、点字版と点字データ版のセット、及び点字版とデイジー版のセットを製作・販売し、視覚障害生徒の学習に供する。
- ② 視覚特別支援学校高等部用教科書の製作
視覚特別支援学校高等部用教科書「be English Logic and Expression I Clear」「be English Logic and Expression II Clear」及び「科学と人間生活」を製作・販売し、視覚障害生徒の学習に供する。
- ③ 文部科学省著作教科書の製作
視覚特別支援学校中学部用教科書「社会（公民的分野）」を製作し、視覚障害生徒の学習に供する。
- ④ 普通校に通う生徒のための点字教科書の製作
普通校に通う視覚障害生徒（小中学生 3 名）のための点字教科書を製作し、その学習に供する。

(5) 各種点字印刷物の製作

公的機関や企業等の依頼により、自治体等広報誌、ラジオ番組表、各種試験や会議資料、点字名刺等の製作を行う。

(6) 触図等点字サインの製作と監修

公共交通機関や企業等の依頼により、触知案内図、手すり点字銘板、点字運賃表、各種案内板等の製作と監修を行う。

3. 録音図書・録音雑誌・電子書籍の製作

(1) 録音図書・雑誌の製作

① 録音図書の製作

スタジオ、自宅、びぶりお工房（録音図書ネットワーク製作システム）製作による音声デイジー図書 250 タイトルを完成させ、サピエ図書館に登録する。

② 録音雑誌 月刊「にってんデイジーマガジン」の製作とサピエ図書館への登録

③ シネマ・デイジー3 タイトルの製作とサピエ図書館への登録

④ テレビ・デイジー48 タイトルの製作

⑤ プライベートのニーズに応えるため、個人朗読及び専門対面リーディングサービス（年間延べ利用者 200 人）を行う。

⑥ ボランティア、スタッフの指導・育成

- ・現役朗読者等に対する朗読技術向上のための指導を行う。
- ・図書製作実務を担えるスタッフ等育成のための技能向上研修の実施を検討する。
- ・新規のボランティアを育成する。

(2) 池田輝子記念文庫製作事業

録音図書のネットワーク製作及びデイジー編集を行う。

(3) 電子書籍の製作

① テキストデイジー図書

- ・自館選書分 200 タイトルの製作とサピエ図書館への登録
- ・リクエストによる 70 タイトルの製作と提供

② マルチメディアデイジー図書

一般図書 6 タイトルの製作とサピエ図書館への登録

③ 「アクセシブルな電子書籍製作実験プロジェクト」を国会図書館と協力して運営し、参加機関拡大のための広報を進める。

4. 厚生労働省委託事業

視覚障害者用図書等事業を実施する。

5. 厚生労働省補助事業

視覚障害者等情報総合ネットワーク（サピエ）管理事業を実施する。

6. 東京都委託事業

- (1) 東京都視覚障害者用図書製作貸出事業の委託を実施する。
- (2) 東京都視覚障害者用図書レファレンスサービス事業の委託を実施する。

7. 東京都補助事業

都内貸出事業に対し、東京都から補助金を得て実施する。

8. 川崎市視覚障害者情報文化センター運営委託事業

指定管理者として川崎市視覚障害者情報文化センターを運営・管理する。

- (1) 図書館事業、訓練事業、用具事業を合わせもつ強みを活かしたサービスを行う。
- (2) 見えづらくなった人が早期にセンターとつながるように市内眼科医院、障害者相談支援センター、リハビリテーションセンターなど、地域資源との連携を図る。
- (3) 相談・訓練については、ここ数年、長期的な訓練よりも短期的な相談ニーズが強い。そのニーズに合わせてスポット的な要望に積極的に応えていく。また、市内全域にスピード感を持って対応できるよう努める。
- (4) 利用者の趣向に加え、川崎らしさの視点を加えた資料製作、資料提供を行う。
- (5) 点訳・音訳・音声ガイド製作ボランティアの養成に努め、質の高い資料製作・音声ガイドの製作を進める。
- (6) 音声ガイド付き DVD 映画の体験上映会、ヨガ教室、れきおんクラブ、図書利用者交流会、コンサート、センターまつりなどの文化的イベントを開催する。
- (7) 公共図書館における読書バリアフリー法の推進に寄与するため、市内公共図書館との連携を進める。
- (8) 利用者が、時代の変化に応じた読書環境に適応できるようサポートを行う。
- (9) 災害に備え、飲料水や食料品などを計画的に備蓄するなど、防災・減災対策を進める。

9. 公的機関・団体・企業等からの委託及び助成・補助による事業

- (1) 東京都消費生活総合センター CD 版「東京くらしねっと」(年間6回)を製作し、送付する。

(2) 新宿区

- ① 「広報新宿」の点字版を製作し、配布する。
- ② 「しんじゅくの教育」の点字版を製作し、配布する。
- ③ 「新宿区議会だより」の点字版を製作し、配布する。

(3) 消費生活協同組合 点字・録音図書を製作し、貸出す。

(4) 社会福祉法人 NHK 厚生文化事業団

- ① 寄贈番組 CD を受け入れ、貸出を行う。
- ② 「NHK 障害福祉賞入選作品集」音声版を製作する。

(5) 社会福祉法人読売光と愛の事業団

- ① ロービジョンサービス事業を行う。ロービジョン機器等の相談に対応するとともに、遠方の利用者にはルーペ・レンズ類の見本を貸出する。
- ② 専門対面リーディングサービス事業を実施する。

(6) 公益財団法人 JKA 録音雑誌「医学研究」(月刊) 及び「ホームライフ」(月刊) を製作し、配布する。

(7) 公益財団法人鉄道弘済会 録音雑誌「ブックウェーブ」(月刊) を製作し、配布する。

(8) 公益財団法人東京都人権啓発センター マルチメディアデイジー版「TOKYO 人権」(年4回発行) を製作する。

(9) 公益財団法人日本尊厳死協会 点字版「リビング・ウイル」(季刊) を製作する。

(10) 公益財団法人日本テレビ小鳩文化事業団 点字カレンダーを製作し、配布する。

(11) 公益財団法人早川清文学振興財団 録音図書「ハヤカワライブラリー」10 タイトルを製作し、貸出す。

(12) 公益財団法人一ツ橋総合財団

- ① 録音図書「一ツ橋文庫」10タイトルを製作し、貸出す。
- ② テキストデイジーの製作・提供。
- ③ 録音図書ネットワーク(びぶりお工房)でのデイジー図書製作。
- ④ 音声・テキスト化における製作支援(生成AIの活用)。
- ⑤ 録音雑誌「にってんデイジーマガジン」一ツ橋財団提供の記念企画を掲載。

(13) 一般財団法人 NHK 財団 テレビ・デイジー48 タイトルを製作し、提供する。

- (14) 一般財団法人日本宝くじ協会 点字・録音（音声・シネマ・デイジー）図書を製作し、貸出す。
- (15) 一般社団法人全国腎臓病協議会 CD 版「ぜんじんきょう」（隔月刊）を複製、配布する。
- (16) 一般社団法人日本アマチュア無線連盟 「点字 JARL NEWS」（季刊）を製作する。
- (17) 株式会社岩波書店 原本寄贈を受けて、岩波新書等の録音版を製作する。
- (18) 株式会社広済堂ネクスト 録音版文京アカデミー情報誌「スクエア」（月刊）を製作する。
- (19) ソニー株式会社 録音版「聞くカタログ」を製作する。
- (20) 株式会社文藝春秋 録音雑誌「文藝春秋」（月刊）を製作し、配布する。
- (21) 日本盲人福祉委員会 点字版・音声版参議院選挙公報製作に協力する。

《社会福祉事業 2》

障害福祉サービス事業の経営及び相談支援の実施

1. 自立訓練（生活訓練）事業

- (1) 歩行訓練、コミュニケーション訓練、日常生活動作訓練を個々のニーズに沿って円滑に実施する。また、訓練マニュアル等のアップデートを図り、最新の知見を反映させ利用者満足度の高い訓練を実施する。
- (2) 生活訓練につながらない支援ニーズについては、図書情報課・用具事業課のサービスにつなげ、見えない・見えにくい人たちの QOL（生活の質）の向上と社会参加を支援する。
- (3) 多くの利用者を呼び込めるよう、ホームページのコンテンツを充実させる。また、昨年に引き続き、役所や関係機関向けの広報を重点的に行うことにより利用者の増大を図り、収支の安定した運営が出来る体制を構築する。

2. 相談支援

- (1) 「見えない・見えにくい困りごと相談デスク」を通じて、当館の自立訓練や各種サービス、また他の関連機関を紹介するなどして、相談者が社会との適切なつながりを確保できるよう支援する。
- (2) 見えない・見えにくい人たちの基本相談を受け、相談者の QOL（生活の質）向上に寄与する。

3. 医療機関との連携

東京都ロービジョンケアネットワークへの参加及び、眼科のロービジョン相談会へ参加するなど、医療機関との連携を強化し、眼疾患により不便さを感じている当事者へ情報提供を行い、福祉資源の活用を促すための支援をする。

4. 点字教室の開催

自立訓練（生活訓練）を終了した利用者および自立訓練の対象にならない利用者に点字教室を開催する。

《公益事業》

盲人生活用具の開発と普及及び国際視覚障害者情報提供協力事業

1. 視覚障害者用具の販売

- (1) 視覚障害者及び視覚障害者をサポートする人たちのニーズに合った商品・サービスを提供する。
- (2) 社会情勢を考慮し顧客のニーズに合わせた体験会等を開催する。
- (3) 新規 EC サイトへの移行を実施し、利用者にとってアクセシビリティの高い「わくわく用具ショップ」を運営する
- (4) 既存の商品カタログを充実させ、新たな顧客の獲得と当館利用者の拡大を目指す。同時に、デイジーマガジン、メールマガジン、SNS を活用し効果的な商品紹介や情報発信を行う。

- (5) 視覚障害者のファーストコンタクトの場所としての利用が増えてきた現状を踏まえ、用具の販売は自立支援の入り口になりうることを意識し、自立支援課と連携して適切な用具や必要な情報を発信する。
- (6) ロービジョン者へ適切な補助具を提供するために、拡大読書器、ルーペ、遮光眼鏡などを備える。
- (7) 会計業務を本部と一元化する。
- (8) 販売管理システムを活用し、在庫管理の適正化と業務の効率化に努める。

2. 厚生労働省委託事業

盲人用具販売あつ旋事業の委託をを実施する。

3. 第 22 回池田輝子 ICT 奨学金事業

池田輝子基金により第 22 回池田輝子 ICT 奨学金事業を実施する。

4. アジア盲人図書館協力事業

コンピュータ点字製作技術指導講習会の実施を検討する。

《収益事業》

マンションの設置経営

2 棟のマンションを運営し、生じた収益を社会福祉事業及び公益事業に充当する。

《本部事業》

1. にってんワークショップの開催

当館の事業を紹介することを通して一般の方々に視覚障害者への理解を深めていただくため、テーマを決めて体験型講座（ワークショップ）を開催する。

2. 奥村文庫（視覚障害関係墨字資料室）の充実

視覚障害に関わる図書・雑誌をはじめとする資料・情報の収集と整理に努め、館内外の関係者、研究者等からの問い合わせに対し、適切な資料または情報をもって応じられるようにする。

3. 「ふれる博物館」の運営

- (1) 分館において、主に借り受ける模型を展示し、触察を有効なアクセス手段とする視覚障害者への多面的な情報提供を行う。前期・後期、2回の企画展を実施する。
- (2) 企画展内容あるいは触察に関係するイベントを開催する。
- (3) 視覚障害者の触察による情報取得について、他団体と連携を図る。
- (4) 過去の盲人用具の収集、保存整理を行う。

4. 本間一夫記念室の運営

- (1) 重点項目に係る創立者本間一夫生誕 110 年記念誌を発行する。
- (2) 本間一夫の関係資料を収集管理し、来館者に公開する。
- (3) 当館に関する歴史的資料の有効活用を図るため、墨字資料のデジタル化を進める。
- (4) 研究者による本間一夫及び当館に関する調査に協力する。

5. 寄付・助成金の増収

毎年継続の維持会費、企業や諸団体助成金の増収に一層努力する（当館ホームページからの募金、愛のポストカード運動を含む）。

図書製作支援寄付であるワンブック・プレゼント運動に対し、企業・個人からの支援を募る。

6. 日本点字図書館カード会員の拡大

見学者、チャリティコンサート等の来場者に対して加入勧奨のパフレットを配布し、加入者の拡大を図る。

7. チャリティコンサートの実施

2025 年 12 月 13 日（土）東京文化会館小ホールにて、第 23 回本間一夫記念チャリティコンサートを開催する。

8. 第 22 回本間一夫文化賞の贈呈

創立者本間一夫を記念し、視覚障害者の文化の向上にかかる優れた業績をあげた個人・団体を顕彰する。

9. 第 32 回にってん野路菊賞の贈呈

日本点字図書館の業務等について多大な貢献をされた個人・団体を表彰する。

10. 広報誌その他の発行

広報誌「にってんフォーラム」（年 4 回、各 5,800 部）を発行し、当館の活動および視覚障害関係情報を広報する。また、7 月に「感謝録」（8,000 部）を発行する。

11. 第 8 回全国視覚障害者囲碁大会の開催

社会福祉法人 NHK 厚生文化事業団、公益財団法人毎日新聞東京社会事業団、社会福祉法人朝日新聞厚生文化事業団の助成により、NPO 法人日本福祉囲碁協会との共催で、全国視覚障害者囲碁大会を開催する。

《会議・研修・福利厚生》

1. 会議

- (1) 理事会の開催
- (2) 評議員会の開催
- (3) 評議員選任・解任委員会の開催
- (4) 館内会議の開催
 - ① 部長会議（随時開催）
 - ② 部課長会議（毎月 1 回）
 - ③ 課長会議（随時開催）
 - ④ グループリーダー会議（毎月 1 回）
- (5) 各委員会の開催（随時開催）

2. 研修

新規採用職員研修および初任者研修、施設見学研修ほかを実施する。合わせて、他の研修についても見直しや検討をし、可能なものは年度内に実施する。

3. 福利厚生

職員の健康診断、ストレスチェックテストを実施する。

4. 防災

- (1) 防災・減災への取り組みを各課で実施する。
- (2) 避難訓練を2回実施する。